

## ダンス愛好者の運動者行動に関する研究

—舞踊学専攻学生のダンス・スポーツ行動分析から—

### A study on dancers concerning the behavior of sports and recreational activities

—From the dance and sports action analysis of students  
majoring in dance—

小野里 真 弓<sup>1)</sup> 畑 攻<sup>2)</sup> 小山 佳子<sup>3)</sup>  
坂本 秀子<sup>4)</sup> 高野 美和子<sup>5)</sup>

*Mayumi ONOZATO, Osamu HATA, Kayoko KOYAMA  
Hideko SAKAMOTO and Miwako TAKANO*

#### Abstract

A traditional subject of sports management is the behavior of sports consumers concerning sports and recreational activities and how they participate in these activities.

This study is a fundamental approach to new sports consumer behavioral research based on a long-term study. The purpose of this study is to research new possibilities of sports consumer behavior in addition to the current situation of sports consumer behavior from the particular viewpoint of dance behavior, sports behavior and the life style of dancers in each genre.

The following results were obtained :

1. Characteristic behavior concerning dance and sports were clarified.
2. The idea and life style in each dance genre are unique. It was suggested that not only dance and sports behavior, but also consumer behaviors concerning sports from more various viewpoints should be studied.
3. The possibilities of new sports consumer behavioral research were considered.

*Keywords : Sports behavior, Dancers, Life style*

## I. 緒 言

体育・スポーツ経営の目的は、人々の運動需要に対応し、それぞれの運動現象の目的を達成するために様々な条件整備を行うことである。人々の運動現象が成立する背景には、運動者自身の運動に対する欲求や必要感、体育やスポーツに対する考え方、経験などの主体的条件やそれらを取り巻く社会的、経済的などの環境的条件が複雑に関わり合っている。そのような条件の中で、人々が運動やスポーツをめぐってどのよう

な行動をするかを体育・スポーツ経営の分野では「運動者行動」と捉え、最も基本的な課題として取り上げてきた経緯がある。体育・スポーツ経営において運動者行動を問題にするのは、単に人々と運動・スポーツの関わり方を説明することが重要なのではなく、体育・スポーツ事業によって創出されるスポーツサービスへと発展させることが重要な目的である。その原点となるのは、宇土による体育・スポーツ事業論であり、豊かな運動生活を実現するための「場」や「機会」を整備し人々に提供する営みとして、クラブサービス事業(Club Service：以下、C.S. と表記)、プログラムサービス事業(Program Service：以下、P.S. と表記)、エリアサービス事業(Area Service：以下、A.S. と表記)の3つが基本となっている。これらは、運動者が運動やスポーツに接近しやすいスポーツ環境を整備するた

1) 日本女子体育大学 (非常勤講師)  
上武大学 (講師)

2) 日本女子体育大学 (教授)

3) 日本女子体育大学 (准教授)

4) 日本女子体育大学 (准教授)

5) 日本女子体育大学 (准教授)

めのスポーツサービスであり、C.S.は、運動の仲間や集団を組織、育成しながら維持する支援を行うクラブサービス事業、P.S.は、運動やスポーツの成立に必要な内容や時間をプログラムとして企画し提供するプログラムサービス事業、A.S.は、公共運動施設や学校体育施設などを広く自由に利用できるよう開放し提供するエリアサービス事業である。これらの体育・スポーツ事業は、運動者の様々なニーズや欲求に的確に対応することが求められるとともに、スポーツサービスとしてより多様な運動者に対応することが必要である。

これまでの体育・スポーツ経営学の分野では、このような体育・スポーツ事業論を基本に運動者行動に着目した研究として、八代ら(1981)<sup>26)</sup>による運動者行動と経済的条件の影響要因に関する研究や畑ら(1984)<sup>4)</sup>の運動者の主体的条件の類型化に関する研究などが報告されている。これらの先行研究は、運動者行動研究の先駆けとして有用な示唆を与えたことは言うまでもないが、21世紀を迎えた現代においては、運動者行動論に依拠した研究は最も基本的な課題でありながら、殆ど報告されていない。その背景としては、社会の変化に伴い人とスポーツの関わり方が多様化するとともに、体育・スポーツ経営学における研究対象の関心が「するスポーツ」に留まらず、「みるスポーツ」や「支えるスポーツ」等、新たな視点からのアプローチへと移行したことが要因ではないかと考える。また、これらの視点を背景に行政主導による地域スポーツの在り方やスポーツビジネスにおけるマネジメントが研究の対象として取り上げられることは、体育・スポーツ経営学の科学的知見や学術領域としての拡大、発展に大いに貢献することではあるものの、その一方で、人々の生活満足や豊かなスポーツライフのための真の運動者行動研究については、現代において発展途上であると言える。

小野里ら(2013)<sup>18)</sup>は、このような運動者行動研究への原点回帰の必要性から人々の生活満足からみたスポーツサービスの検討として、運動者行動分析の方法論について言及している。その方法論とは、運動者の生活満足度と「ライフスタイル」項目、「地域関与」項目、「スポーツ関与」項目の規定関係から生活満足度に有効な要因を示すことや運動者のライフスタイル、価値観によるセグメントを抽出することにより、きめ細やかなスポーツサービスの在り方を検討するものである。さらに、あらゆる運動者へのアプローチとして、子どもから高齢者までの幅広い年齢層や様々なスポー

ツ種目を対象とした多様な運動者行動研究への対応が有効であることを示唆するものである。しかしながら、運動者行動研究としての究明は、現段階では探索的であり、今後も様々な運動者を対象にした研究やスポーツサービスへの発展性が課題であると言える。

本研究は、このような背景を踏まえ、様々なニュースポーツが拡大、確立されている現代社会において、新たな運動者行動の解明を課題とし、これまであまり取り上げられていないダンスの運動・スポーツ行動に着目した。ダンスやダンスレッスンに関する先行研究では、石川(2011<sup>5)</sup>、2012<sup>6)</sup>、2013<sup>7)</sup>)によるストリートダンスの特性やマーケティングに関する研究が挙げられ、ストリートダンスのライフスタイル行動やスポーツビジネスへの発展性が報告されている。また、ダンスレッスンに関する研究では、伊東(2007)<sup>8)</sup>によるダンス系レッスンにおけるスポーツプロダクトの検討や小野里ら(2009<sup>15)</sup>、2010<sup>16)</sup>)によるダンスレッスンにおけるマネジメントを課題とした研究が挙げられるが、ダンスという固有なスポーツを対象とした研究は、未だ多くの課題を有しているもののあまり取り組まれていないのが現状である。生涯スポーツ時代における広い意味での運動・スポーツにおいて、ダンスや舞踊は文化的意味や価値を含んだ身体的活動であり、運動者行動研究においても重要な課題であると考えられる。

本研究では、これまでの伝統的な運動者行動研究から新たなスポーツ行動研究への基礎的な取り組みとして、ダンス愛好者のダンス行動、運動・スポーツ行動、ライフスタイル等の特性を明らかにすることから現代的な運動者行動研究の可能性および新たなスポーツプロモーションへの発展性を検討することを目的とした。

## II. 研究方法

### 1. 基本的なアプローチ

本研究では、宇土の体育・スポーツ事業論を基軸とし、運動者行動の視点から体育・スポーツ経営学の基本的な課題であるスポーツサービスづくりを究明するにあたり、ダンス愛好者に焦点を当て、より有効な運動者行動研究について検討することを目指すものである。

体育・スポーツ経営においては、人々の豊かな運動・スポーツ生活実現のために様々な運動の「場」や「機会」などの条件を整えることが基本的な課題である。

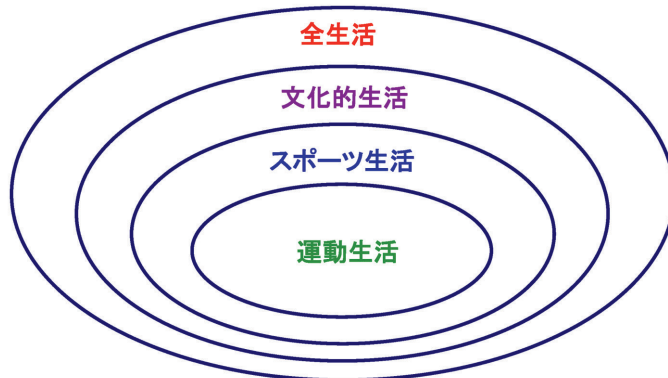


図1 人間生活とスポーツ生活  
(八代・中村 編著 (2005)「体育・スポーツ経営学講義」p.42より抜粋)

豊かなスポーツ生活とは、人とスポーツの多様な関わり方によりそれぞれの楽しさや喜びを味わうことであるが、単にスポーツとの関わりの中だけで成立するものではない。人間生活の全体は、衣食住などの生存に関わる基礎的な部分からより人間らしく、即ち楽しく生きがいのある生活を送ることができるかという文化的な部分も重要である。そのような生活の中で、スポーツ活動も生活を構成する様々な活動の中で相互作用しながら成立するものである。図1は、八代ら(2005)<sup>25)</sup>による体育・スポーツ経営学におけるスポーツ生活の捉え方を構造化したものである。先に述べたように、スポーツ活動をトータルな人間生活の要素として捉えると、様々な趣向やライフスタイルの在り方も運動者行動の一部として捉える必要があると考える。このような視点から、本研究では、ライフスタイルに関する項目およびダンス活動に取り組む運動者の基本特性、ダンス活動状況、運動・スポーツ行動、ダンス活動の満足度に関する項目を設定した。具体的には、ダンスという固有なスポーツ(種目)に取り組む運動者として日本女子体育大学(以下、本学と表記)舞踊学専攻の学生(以下、舞踊学生と表記)を対象とし、ダンス活動を専門としている運動者のデータに基づき、ダンス・スポーツ行動やダンス活動の満足度の分析から運動者行動研究の可能性を考察した。

## 2. 調査の実施と分析の手順

### (1) 調査項目の設定

調査項目は、石川(2013)<sup>7)</sup>によるストリートダンサーを対象とした特性や行動に関する研究をはじめ、これまでの運動者行動分析に関する先行研究、および関連するライフスタイル調査などを踏まえ、基本特性、

ダンス活動状況、運動・スポーツ行動に関する項目やライフスタイル項目を中心に設定した。運動・スポーツ行動については、舞踊学生という特徴から、現在専門としているダンスジャンルやこれまでレッスン等で経験したことのあるダンスジャンルについての設問に加え、中学・高校時代のダンス活動、運動部所属経験などの項目を設定した。また、ライフスタイルに関する項目は、生活の中での趣向や心情、ボディケアやボディコンディショニングなどの視点から36項目を設定し、「非常に思う」から「全く思わない」までの5段階評定尺度で回答を求めた。

さらに、運動者の生活満足となる総合的な指標として、「学生生活に満足している」と「ダンス活動に満足している」の項目を設定した。満足度に関する項目についても5段階評定尺度により回答を求めた。

### (2) 調査概要及び分析の手順

調査は、舞踊学生を対象に質問紙によるアンケート調査を実施し、1年生84名、2年生80名、3年生48名、4年生3名、計215名の回答を得た。調査期間は、2013年5月であった。

得られたデータに対し、統計ソフトSPSS17.0ver.にて基礎集計、基本統計、クロス分析を行い、必要に応じて $\chi^2$ 検定やF検定(分散分析)を用いて統計的有意性を確認した。さらに、ライフスタイルに関する36項目と「ダンス活動に満足している」の規定関係に着目し、重回帰分析を行った。その際、ダンス活動の満足度により有効な規定関係を明らかにするために、ライフスタイルに関する36項目と「ダンス活動に満足している」のクロス分析の結果において有意性が確認された12項目を説明変数、「ダンス活動に満足している」の項目を目的変数とした重回帰分析を行った。これら

の分析を用いて、結果を考察した。

### III. 結 果

#### 1. 運動・スポーツ行動研究の必要性と発展性

体育・スポーツ経営学における運動者行動論は、体育・スポーツ事業であるC.S., A.S., P.S.に基づき、C運動者, A運動者, P運動者, 現時点では運動をしていないS運動者(Stay運動者)の基本的類型により運動者が運動の「場」や「機会」をめぐる、どのように行動するかを捉えている。このような運動者行動論は、人々のスポーツ行動を理解し、体育・スポーツ事業、即ちスポーツサービスの改善や開発に有用な示唆を与えるアプローチであり、まさにスポーツ消費者である運動者に着目した真のマーケティングの視点からスポーツサービスを検討するものである。本研究では、現代的な運動者行動研究の探索的な試みとして、このようなマーケティングの視点から運動者を捉えるとともに、ダンスという固有なスポーツ消費者へのアプローチにより新たな運動者行動を究明するものである。

マーケティングの視点によるこれまでの運動・スポーツ行動研究では、石川(2013)<sup>7)</sup>によるストリートダンスのマーケティング研究が挙げられる。石川

(2013)<sup>7)</sup>は、ニュースポーツであるストリートダンサーの行動分析、ライフスタイル特性から、運動者行動を明らかにするとともに、ストリートダンスの普及やプロモーション、さらにスポーツ行動研究の新たな可能性を提案している。即ち、従来の運動者行動論に加え、ストリートダンスという個別なスポーツ消費者の特性やダンス固有の文化、価値を包含したマーケティングおよびマネジメントの必要性を指摘するものである。石川(2011<sup>5)</sup>, 2012<sup>6)</sup>, 2013<sup>7)</sup>の先行研究による運動者行動およびこれまでの運動者行動研究を踏まえ、本研究では、これまでの伝統的な運動者行動論の視点に加え、スポーツ固有の文化を理解することや時代の流れとともに多様化した人々のスポーツ行動を捉えることが新たな運動者行動研究の視点となるものとして、研究の枠組みを構成した(図2)。これらの視点は、単に運動・スポーツ行動を対象とするものではなく、運動者の価値観やスポーツがもつ固有な文化等を包含したトータルな人間生活の中で様々なスポーツ活動へと発展する可能性を示すものである。即ち、運動・スポーツ活動を促進する現代的なスポーツプロモーションへの有効性やスポーツビジネスへの発展性が期待されるものと考ええる。

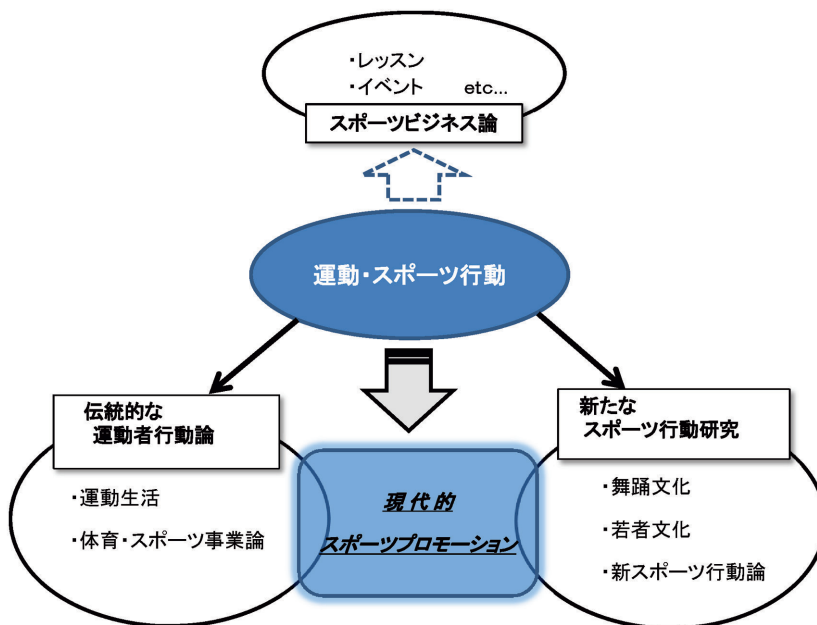


図2 運動・スポーツ行動研究の可能性：石川(2013)改

## 2. 舞踊学生のダンス行動および運動・スポーツ行動

### (1) 現在のダンス行動

舞踊学生のダンス行動として、現在専門として取り組んでいるダンスジャンルについて回答を求めた(表1)。最も多い割合を示したジャンルは、クラシックバレエ33.5%、次いでジャズダンスが22.3%、モダンダンスが19.1%であった。また、活動頻度では、「週3回」が21.4%、「週2回」が18.6%、「週4回」、「週6回」が17.2%とばらつきがあり、様々な活動形態であることが示された。

これまでに経験したダンスジャンルについて、現在専門とするダンスジャンル別による分析を行なった(表2)。その結果、専門としているダンスジャンルの経験が高い割合を示すことは当然であるが、全体的にクラシックバレエ、ジャズダンスの経験者が多いことが示された。また、「モダンバレエ」の学生は、基本となるクラシックバレエからモダンダンス、ジャズダンス、コンテンポラリー・ダンスなど、多岐にわたりあらゆるダンスを経験していることが特徴的であった。

これらの結果から、舞踊学生はダンス活動に取り組む中で、様々なダンスジャンルの経験を持つことが示された。

### (2) 現在の運動・スポーツ行動

表3は、現在の運動・スポーツ行動について専門とするダンスジャンル別による結果を示したものである。調査対象となった舞踊学生は、運動・スポーツ活動の中心がダンス活動であることは想定できるが、どのような活動形態で取り組んでいるのか、運動者行動

の視点から分析した。その結果、「本学の運動部に所属している」が全体で106名(49.3%)と約半数であった。一方、「レッスンや稽古等に通っている」は、137名(63.7%)と高い割合を占め、クラブでの活動だけではなく、個人的にレッスンや稽古に取り組みながら活動していることがわかる。特に、「クラシックバレエ」の学生は、運動部への所属も44.4%見られるが、73.6%がレッスンや稽古に通っていることから、舞踊団やバレエ団での活動が中心となっていることがわかる。これらの結果から、舞踊学生の運動・スポーツ行動は、運動部での活動だけではなく、学外でのレッスンや稽

表1 舞踊学生のダンス行動

		人数	%
現在専門としている ダンスジャンル	<u>クラシックバレエ</u>	<u>72</u>	<u>33.5</u>
	モダンバレエ	22	10.2
	<u>モダンダンス</u>	<u>41</u>	<u>19.1</u>
	コンテンポラリー・ダンス	9	4.2
	ヒップホップ	8	3.7
	<u>ジャズダンス</u>	<u>48</u>	<u>22.3</u>
	その他	7	3.3
	複数回答者	8	3.7
活動頻度	週1回	21	9.8
	週2回	40	18.6
	<u>週3回</u>	<u>46</u>	<u>21.4</u>
	週4回	37	17.2
	週5回	15	7.0
	週6回	37	17.2
	毎日	15	7.0
	無回答	4	1.9

※回答が多い項目を強調下線で表示

表2 専門ダンスジャンル別による経験のあるダンスジャンル

【経験のあるダンスジャンル】	【現在専門としているダンスジャンル】																全体 N=215	
	クラシック バレエ		モダン バレエ		モダン ダンス		コンテンポ ラリー・ダンス		ヒップ ホップ		ジャズ ダンス		その他		複数回答者			
	n=72	n=22	n=41	n=9	n=8	n=48	n=7	n=8	f	%	f	%	f	%	f	%		
クラシックバレエ	<u>46</u>	<u>63.9</u>	<u>16</u>	<u>72.7</u>	<u>29</u>	<u>70.7</u>	<u>6</u>	<u>66.7</u>	2	25.0	<u>33</u>	<u>68.8</u>	<u>7</u>	<u>100</u>	4	50.0	<u>143</u>	<u>66.5</u>
モダンバレエ	16	22.2	<u>18</u>	<u>81.8</u>	8	19.5	2	22.2	1	12.5	13	27.1	0	0	<u>6</u>	<u>75.0</u>	64	29.8
モダンダンス	12	16.7	<u>13</u>	<u>59.1</u>	<u>22</u>	<u>53.7</u>	<u>5</u>	<u>55.6</u>	0	0	19	39.6	1	14.3	<u>5</u>	<u>62.5</u>	77	35.8
コンテンポラリーダンス	31	43.1	11	50.0	14	34.1	4	44.4	0	0	16	33.3	0	0	4	50.0	80	37.2
ヒップホップ	15	20.8	5	22.7	14	34.1	4	44.4	<u>5</u>	<u>62.5</u>	<u>33</u>	<u>68.8</u>	3	42.9	1	12.5	80	37.2
ジャズダンス	31	43.1	<u>12</u>	<u>54.5</u>	<u>21</u>	<u>51.2</u>	<u>6</u>	<u>66.7</u>	<u>5</u>	<u>62.5</u>	<u>34</u>	<u>70.8</u>	<u>5</u>	<u>71.4</u>	<u>5</u>	<u>62.5</u>	<u>119</u>	<u>55.3</u>
その他	17	23.6	3	13.6	11	26.8	0	0	2	25	16	33.3	1	14.3	1	12.5	51	23.7

※51%以上の回答を強調下線で表示

表3 専門ダンスジャンル別による現在の運動・スポーツ行動

	【現在専門としているダンスジャンル】																全体	
	クラシック バレエ		モダン バレエ		モダン ダンス		コンテンポ ラリー・ダンス		ヒップ ホップ		ジャズ ダンス		その他		複数回答者			
	n=72	n=22	n=41		n=9		n=8		n=48		n=7		n=8		N=215			
f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	
運動らしいことはほとんど 行っていない	10	13.9	4	18.2	2	4.9	1	11.1	0	0	1	2.1	1	14.3	1	12.5	20	9.3
運動部に所属している	32	44.4	10	45.5	<u>29</u>	<u>70.7</u>	3	33.3	3	37.5	20	41.7	<u>4</u>	<u>57.1</u>	<u>5</u>	<u>62.5</u>	106	49.3
学外のサークル・クラブに 所属している	3	4.2	2	9.1	1	2.4	0	0.0	4	50	7	14.6	2	28.6	0	0	19	8.8
レッスンや稽古等に 通っている	<u>53</u>	<u>73.6</u>	14	63.6	17	41.5	<u>6</u>	<u>66.7</u>	<u>8</u>	<u>100</u>	<u>33</u>	<u>68.8</u>	1	14.3	<u>5</u>	<u>62.5</u>	<u>137</u>	<u>63.7</u>
自由時間に運動している	10	13.9	2	9.1	6	14.6	1	11.1	1	12.5	9	18.8	0	0	1	12.5	30	14.0
その他	1	1.4	0	0	2	4.9	0	0	1	12.5	3	6.3	0	0	0	0	7	3.3

※51%以上の回答を強調下線で表示

表4 専門ダンスジャンル別による過去の運動・スポーツ行動

	【現在専門としているダンスジャンル】																全体	
	クラシック バレエ		モダン バレエ		モダン ダンス		コンテンポ ラリー・ダンス		ヒップ ホップ		ジャズ ダンス		その他		複数回答者			
	n=72	n=22	n=41		n=9		n=8		n=48		n=7		n=8		N=215			
f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	
運動らしいことはほとんど 行っていなかった	3	4.2	2	9.1	3	7.3	1	11.1	0	0	1	2.1	0	0	0	0	10	4.7
運動部に所属していた	16	22.2	10	45.5	19	46.3	4	44.4	4	50	<u>28</u>	<u>58.3</u>	3	42.9	<u>6</u>	<u>75.0</u>	90	41.9
学外のサークル・クラブに 所属していた	3	4.2	3	13.6	5	12.2	0	0	3	37.5	11	22.9	<u>4</u>	<u>57.1</u>	3	37.5	32	14.9
レッスンや稽古等に 通っていた	<u>66</u>	<u>91.7</u>	<u>19</u>	<u>86.4</u>	<u>34</u>	<u>82.9</u>	<u>7</u>	<u>77.8</u>	6	75	<u>38</u>	<u>79.2</u>	<u>5</u>	<u>71.4</u>	<u>7</u>	<u>87.5</u>	<u>182</u>	<u>84.7</u>
自由時間に運動していた	3	4.2	2	9.1	6	14.6	0	0	1	12.5	6	12.5	0	0	2	25	20	9.3
運動らしいことはほとんど 行っていなかった	2	2.8	2	9.1	2	4.9	2	22.2	0	0	1	2.1	0	0	0	0	9	4.2
運動部に所属していた	18	25.0	<u>14</u>	<u>63.6</u>	<u>28</u>	<u>68.3</u>	4	44.4	<u>5</u>	<u>62.5</u>	<u>34</u>	<u>70.8</u>	2	28.6	3	37.5	<u>108</u>	<u>50.2</u>
学外のサークル・クラブに 所属していた	2	2.8	3	13.6	1	2.4	0	0	2	25	6	12.5	3	42.9	3	37.5	20	9.3
レッスンや稽古等に 通っていた	<u>64</u>	<u>88.9</u>	<u>21</u>	<u>95.5</u>	<u>24</u>	<u>58.5</u>	<u>8</u>	<u>88.9</u>	<u>7</u>	<u>87.5</u>	<u>38</u>	<u>79.2</u>	<u>5</u>	<u>71.4</u>	<u>8</u>	<u>100</u>	<u>175</u>	<u>81.4</u>
自由時間に運動していた	5	6.9	3	13.6	5	12.2	1	11.1	1	12.5	7	14.6	0	0	2	25	24	11.2

※51%以上の回答を強調下線で表示

古も活動の一部であることが示された。

### (3) 過去の運動・スポーツ行動

表4は、これまでの運動・スポーツ行動として、中学時代と高校時代について回答を求めた結果を示したものである。現在の運動・スポーツ行動と同様に、中

学・高校時代においても運動部に所属しながら学校以外でのクラブへの所属やレッスン・稽古に通い活動をしているという回答が高い割合を占めた。「運動部に所属していた」と回答した者の中には、中学時代ではダンス部や新体操部に所属していた者が多かったが、一

部で陸上部やバスケットボール部、テニス部などに所属している者もいた。高校時代では、ダンス部、創作ダンス部、新体操部に所属していた者が多く、他の種目への所属はほとんど見られなかった。また、専門としているダンスジャンル別にみると、「クラシックバレエ」の学生は、舞踊団やバレエ団での活動が中心となることから、中学時代、高校時代ともにレッスン・稽古に通い活動をしている割合が高く、「モダンダンス」の学生、「ジャズダンス」の学生は、ダンス部など学校の運動部に所属しながらレッスンにも通っていることが示された。これらの結果から、ダンスや舞踊においては、運動部に所属する活動だけではなく、レッスンや稽古も活動の一部となっていることがわかる。一般的に、他のスポーツ種目は学校運動部での活動を通し

て技能や競技力の向上が図られているが、ダンスにおいては学校体育の中で取り扱われる機会があるものの、授業やクラブ活動の時間での取り組みに留まらず、より多くの時間を費やして専門的なレッスンや稽古に取り組むことが特徴的である。

#### (4) 興味・関心のあるスポーツ

表5は、一般的なスポーツとして21項目を挙げ、これらのスポーツに対する興味・関心について回答を求めた結果を示したものである。全体では、「フィギュアスケート」が85.1%と最も高い割合を占め、次いで「オリンピック」が58.6%、「高校野球」が34.4%であった。フィギュアスケートは、振り付けや作品の構成など、ダンス活動にも共通するような種目であることから高い関心があると考えられる。一方、オリンピックや高

表5 専門ダンスジャンル別による興味・関心のあるスポーツ

【興味・関心のあるスポーツ】	【現在専門としているダンスジャンル】																複数回答者	全体		$\chi^2$ 検定 有意確率
	クラシック バレエ		モダン バレエ		モダン ダンス		コンテンポ ラリー・ダンス		ヒップ ホップ		ジャズ ダンス		その他		f	%				
	n=72	n=22	n=41		n=9		n=8		n=48		n=7		n=8	N=215						
プロ野球	13	18.1	4	18.2	<u>17</u>	<u>41.5</u>	1	11.1	2	25	6	12.5	<u>5</u>	<u>71.4</u>	3	37.5	51	23.7	22.566**	
Jリーグ	9	12.5	1	4.5	9	22.0	1	11.1	0	0	5	10.4	1	14.3	3	37.5	29	13.5	n.s.	
バスケットボール	9	12.5	4	18.2	9	22.0	2	22.2	4	50	<u>15</u>	<u>31.3</u>	<u>4</u>	<u>57.1</u>	1	12.5	48	22.3	15.306*	
バレーボール	14	19.4	4	18.2	11	26.8	4	44.4	1	12.5	9	18.8	1	14.3	4	50	48	22.3	n.s.	
陸上競技	5	6.9	2	9.1	<u>14</u>	<u>34.1</u>	1	11.1	1	12.5	6	12.5	0	0	<u>5</u>	<u>62.5</u>	34	15.8	30.375***	
大相撲	0	0	1	4.5	2	4.9	0	0	0	0	1	2.1	0	0	0	0	4	1.9	n.s.	
アメリカンフットボール	0	0	1	4.5	1	2.4	1	11.1	1	12.5	2	4.2	0	0	1	12.5	7	3.3	n.s.	
メジャーリーグ	1	1.4	1	4.5	6	14.6	0	0	2	25	3	6.3	1	14.3	1	12.5	15	7.0	n.s.	
WCサッカー	16	22.2	6	27.3	16	39.0	1	11.1	1	12.5	16	33.3	1	14.3	2	25	59	27.4	n.s.	
NBA	1	1.4	2	9.1	5	12.2	1	11.1	1	12.5	6	12.5	0	0	0	0	16	7.4	n.s.	
テニス	1	1.4	0	0	4	9.8	0	0	0	0	0	0	0	0	1	12.5	6	2.8	n.s.	
マラソン・駅伝	10	13.9	2	9.1	9	22.0	2	22.2	1	12.5	8	16.7	0	0	0	0	32	14.9	n.s.	
アイスホッケー	0	0	0	0	2	4.9	0	0	0	0	0	0	0	0	1	12.5	3	1.4	n.s.	
オリンピック	38	52.8	<u>15</u>	<u>68.2</u>	<u>30</u>	<u>73.2</u>	6	66.7	4	50	26	54.2	2	28.6	5	62.5	<u>126</u>	<u>58.6</u>	n.s.	
高校野球	19	26.4	7	31.8	21	51.2	2	22.2	4	50	14	29.2	3	42.9	4	50	<u>74</u>	<u>34.4</u>	n.s.	
高校サッカー	12	16.7	4	18.2	10	24.4	1	11.1	1	12.5	8	16.7	1	14.3	2	25	39	18.1	n.s.	
ラグビー	1	1.4	2	9.1	3	7.3	0	0	0	0	2	4.2	0	0	1	12.5	9	4.2	n.s.	
ゴルフ	1	1.4	0	0	2	4.9	0	0	0	0	1	2.1	1	14.3	0	0	5	2.3	n.s.	
F1	1	1.4	2	9.1	1	2.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1.9	n.s.	
水泳	7	9.7	4	18.2	<u>13</u>	<u>31.7</u>	<u>3</u>	<u>33.3</u>	1	12.5	8	16.7	0	0	4	50	40	18.6	16.814*	
フィギュアスケート	<u>64</u>	<u>88.9</u>	<u>21</u>	<u>95.5</u>	<u>38</u>	<u>92.7</u>	7	77.8	5	62.5	37	77.1	5	71.4	6	75	<u>183</u>	<u>85.1</u>	n.s.	

※注目した回答を強調下線で表示

校野球は、社会的な注目度が高いスポーツイベントとして興味・関心を集めていると言える。また、専門としているダンスジャンル別にみると、「モダンダンス」の学生は、プロ野球や陸上競技、水泳など幅広く関心があることや「ジャズダンス」の学生は、バスケットボールへの関心が高いなど、専門のダンスジャンルにより好みのスポーツが異なる傾向が示された。

### 3. ライフスタイルの特徴とダンス活動の満足度

#### (1) ライフスタイル項目の基本統計

ライフスタイルに関する項目は、石川 (2013)<sup>7)</sup>の

トリートダンサーを対象とした特性や行動に関する研究や関連の資料を踏まえ36項目を設定し、「非常に思う」から「全く思わない」の5段階評価尺度により回答を求めた。表6は、舞踊学生の専門としているダンスジャンル別による基本統計を示したものである。ジャンルを問わず全体的に高い反応を示した項目は、「5. 旅行が好きである」、「6. 海や山などの自然が好きである」などの非日常的な体験を示す項目や「23. いい仲間がいる」、「26. 人を喜ばせることが好きである」などの人とのコミュニケーションに関する項目、また「19. マッサージや整体に関心がある」、「28. 自分の国が好きである」などの項目であった。一方、「1. お酒

表6 専門ダンスジャンル別によるライフスタイル項目の基本統計

【ライフスタイル項目】	クラシックバレエ n = 72		モダンバレエ n = 22		モダンダンス n = 41		コンテンポラリーダンス n = 9		ヒップホップ n = 8		ジャズダンス n = 48		F値 有意確率
	平均値	S.D.	平均値	S.D.	平均値	S.D.	平均値	S.D.	平均値	S.D.	平均値	S.D.	
1.お酒をよく飲む方である	2.0	1.23	1.5	.51	1.9	1.07	2.0	1.12	2.4	1.51	2.2	1.29	n. s.
2.漫画をよく読む方である	2.2	1.49	2.2	1.37	2.6	1.38	2.2	1.48	2.6	.92	2.2	1.32	n. s.
3.お祭りやフェスによく参加する	2.8	1.21	2.7	1.29	3.1	1.09	1.8	.67	3.6	1.06	2.8	.98	2.963*
4.アートが好きである	3.6	1.14	3.4	1.09	3.8	.92	3.9	.93	3.6	.92	3.7	.92	n. s.
5.旅行が好きである	4.3	.94	4.3	.95	4.6	.74	4.1	.78	4.5	.53	4.2	.92	n. s.
6.海や山などの自然が好きである	4.1	.82	4.2	.81	4.3	.94	4.2	.83	4.1	.83	4.3	.73	n. s.
7.料理をすることが好きである	3.5	1.14	3.3	1.20	3.5	1.00	3.1	.60	3.5	.76	3.5	1.24	n. s.
8.自転車をよく行動している	3.3	1.55	3.6	1.50	3.3	1.46	2.3	1.66	2.9	1.13	3.4	1.59	n. s.
9.ブログをやっている	2.4	1.55	2.6	1.65	2.7	1.65	1.7	1.12	2.9	1.64	2.4	1.55	n. s.
10.FacebookなどのSNSをよく使う	4.1	1.19	4.0	1.15	3.6	1.45	3.3	1.58	4.8	.46	4.1	1.15	n. s.
11.オリジナルなファッションが好きである	3.6	1.05	3.6	.90	3.8	.97	3.2	1.20	4.0	.76	3.6	1.01	n. s.
12.喫煙習慣がある	1.2	.84	1.1	.47	1.0	.00	1.0	.00	1.1	.35	1.3	.91	n. s.
13.流行のメイクに関心がある	3.4	1.14	3.5	.80	3.5	1.36	2.2	1.30	3.5	1.41	3.5	1.38	n. s.
14.ヘアスタイルに関心がある	4.0	1.05	3.9	.81	3.8	1.26	3.1	1.17	3.6	1.19	3.9	1.02	n. s.
15.スナック菓子をよく食べる	2.9	1.16	3.5	1.26	3.1	1.24	2.8	1.39	3.5	1.20	3.2	1.24	n. s.
16.サプリメントに関心がある	2.7	1.32	2.5	1.30	2.6	1.25	2.3	1.41	1.9	1.13	2.7	1.43	n. s.
17.食習慣がきちんとしている	3.2	.94	2.7	1.04	3.2	1.14	2.3	.71	2.9	1.13	2.9	1.15	n. s.
18.エステに関心がある	3.7	1.16	3.6	1.05	3.4	1.27	2.6	1.13	3.0	1.07	3.9	1.27	2.491*
19.マッサージや整体に関心がある	4.3	.84	4.2	.80	4.1	1.01	4.4	.53	4.4	.52	4.5	.80	n. s.
20.自己中心的である	3.4	.91	3.5	.86	3.4	.92	3.2	.67	4.0	1.07	3.6	.91	n. s.
21.負けず嫌いである	4.0	.94	3.9	.87	4.0	.99	3.9	.93	4.1	.35	4.3	.86	n. s.
22.人に認められたい	4.1	.89	4.2	.85	4.1	.90	4.1	.60	4.3	.89	4.3	.75	n. s.
23.いい仲間がいる	4.6	.76	4.5	.67	4.7	.48	4.4	.53	4.9	.35	4.7	.49	n. s.
24.人と話すことが好きである	4.2	.92	4.4	.73	4.4	.74	4.0	.71	4.5	.76	4.4	.76	n. s.
25.人のために何かをする方である	4.1	.83	4.0	.84	4.2	.77	4.0	1.00	4.5	.53	4.3	.81	n. s.
26.人を喜ばせることが好きである	4.5	.63	4.5	.67	4.4	.67	4.3	.50	4.8	.46	4.6	.53	n. s.
27.外国に興味がある	4.3	1.02	4.1	1.15	4.4	1.09	4.3	.71	4.8	.46	4.4	1.03	n. s.
28.自分の国が好きである	4.4	.74	4.5	.51	4.6	.59	4.6	.73	4.5	.76	4.4	.76	n. s.
29.自分の住む街が好きである	4.1	1.05	4.4	.59	4.5	.67	4.3	.71	3.9	.83	4.2	.95	n. s.
30.伝統や歴史などに興味がある	3.3	1.09	3.5	1.06	3.7	1.04	3.0	.87	2.6	1.06	3.0	1.12	2.504*
31.一人で行動するのが好きである	4.0	.91	4.1	.81	4.1	.89	4.4	.53	4.1	.83	3.9	.93	n. s.
32.ネイルに関心がある	3.7	1.22	3.3	1.25	3.3	1.42	2.3	1.41	3.9	1.36	3.6	1.34	2.273*
33.人前でアピールするのが好きである	3.4	1.17	3.4	1.00	3.4	1.12	2.6	1.24	3.8	.71	3.7	1.01	n. s.
34.DVDをよくみる	3.4	1.21	3.4	1.22	3.8	1.24	3.4	1.33	3.3	1.04	3.5	1.13	n. s.
35.仲間と行動するのが好きである	3.7	.97	3.8	.75	3.9	1.00	3.6	.88	4.4	.52	3.8	.94	n. s.
36.You Tubeをよく利用する	4.1	.90	4.2	.73	4.2	.91	3.9	1.45	4.1	.83	4.4	.86	n. s.

※全体的に高い反応を示した項目・・・赤色で表記

全体的に低い反応を示した項目・・・青色で表記

専門とするダンスジャンル群間での有意性が認められた項目・・・緑色で表記



をよく飲む方である」,「12. 喫煙習慣がある」の項目は、極めて低い反応を示しているが、本調査の対象者は大学1年生、2年生が中心であり、その年齢を考慮すると飲酒や喫煙などの習慣は該当しないものと考えられる。さらに、ダンスジャンル別にみると、「3. お祭りやフェスによく参加する」,「18. エステに関心がある」,「30. 伝統や歴史などに興味がある」,「32. ネイルに興味がある」の4項目において統計的有意性が確認された。その結果、「ヒップホップ」の学生は、お祭りやフェスへの参加に高い反応を示す一方で、「コンテンポラリー・ダンス」の学生は低い反応であることや「クラシックバレエ」,「ジャズダンス」の学生は、エステやネイルなどの美容に対しての関心が見られるが「コンテンポラリー・ダンス」の学生は関心が低いというようにダンスジャンルにより異なる反応が明らかに示された。

#### (2) 「ダンス活動の満足度」との規定関係

本研究では、運動者の満足度の指標として、「自分のダンス活動に満足している」の項目を設定し、「非常に思う」から「全く思わない」までの5段階評定尺度で回答を求めた。その結果、「非常に思う」が28名(13.0%),「思う」が70名(32.6%),「どちらともいえない」が63名(29.3%),「思わない」が39名(18.1%),

「全く思わない」が15名(7.0%)であった。この満足度とライフスタイル項目の規定関係を確認するために重回帰分析を行った。その際、統計的により有効な手法として、目的変数となる「ダンス活動に満足」とライフスタイルに関する36項目のクロス分析の結果から $\chi^2$ 検定により有意性が確認できた12項目を説明変数として選定し、「クラシックバレエ」,「モダンダンス」,「ジャズダンス」の学生別に重回帰分析を行った。表7図3は、各ダンスジャンル別の分析結果を示したものである。その結果、「クラシックバレエ」の学生は、「24. 人と話すことが好きである」,「モダンダンス」の学生は「21. 負けず嫌いである」,「ジャズダンス」の学生は「35. 仲間と行動するのが好きである」の項目において、目的変数である「ダンス活動に満足」に対してプラスに機能することが示された。これらの結果から、ダンスという活動の中でも各ジャンルによる特性が示唆された。

## IV. 考 察

### 1. ダンス愛好者の運動・スポーツ行動

本研究の対象となった舞踊学生が現在専門としているダンスジャンルでは、クラシックバレエが最も多く、

表7 専門ダンスジャンル別「ダンス活動に満足」との規定関係

	クラシックバレエ		モダンダンス		ジャズダンス	
	F 値=7.905** DF= 1		F 値=4.672* DF= 1		F 値=17.857*** DF= 1	
	標準化係数	t 値 (有意確率)	標準化係数	t 値 (有意確率)	標準化係数	t 値 (有意確率)
9. ブログをやっている	0.012	0.109	0.126	0.788	0.145	1.153
17. 食習慣がきちんとしている	0.135	1.129	0.152	1.003	0.176	1.39
21. 負けず嫌いである	-0.004	-0.038	0.327	2.413*	0.007	0.053
22. 人に認められたい	0.109	0.939	-0.129	-0.839	-0.028	-0.221
23. いい仲間がいる	0.147	1.131	0.07	0.453	-0.139	-1.001
24. 人と話すことが好きである	0.319	2.932**	0.027	0.167	0.111	0.85
26. 人を喜ばせるのが好きである	0.07	0.505	0.188	1.2	-0.045	-0.333
31. 一人で行動するのが好きである	-0.122	-1.077	0.181	1.204	-0.123	-0.964
33. 人前でアピールするのが好きである	0.214	1.864	0.213	1.424	0.072	0.521
34. DVDをよくみる	0.203	1.815	0.096	0.581	0.166	1.292
35. 仲間と行動するのが好きである	0.167	1.394	0.158	0.954	0.533	3.024**
36. You Tubeをよく利用する	-0.021	-0.184	-0.3	-2.019	-0.011	-0.082

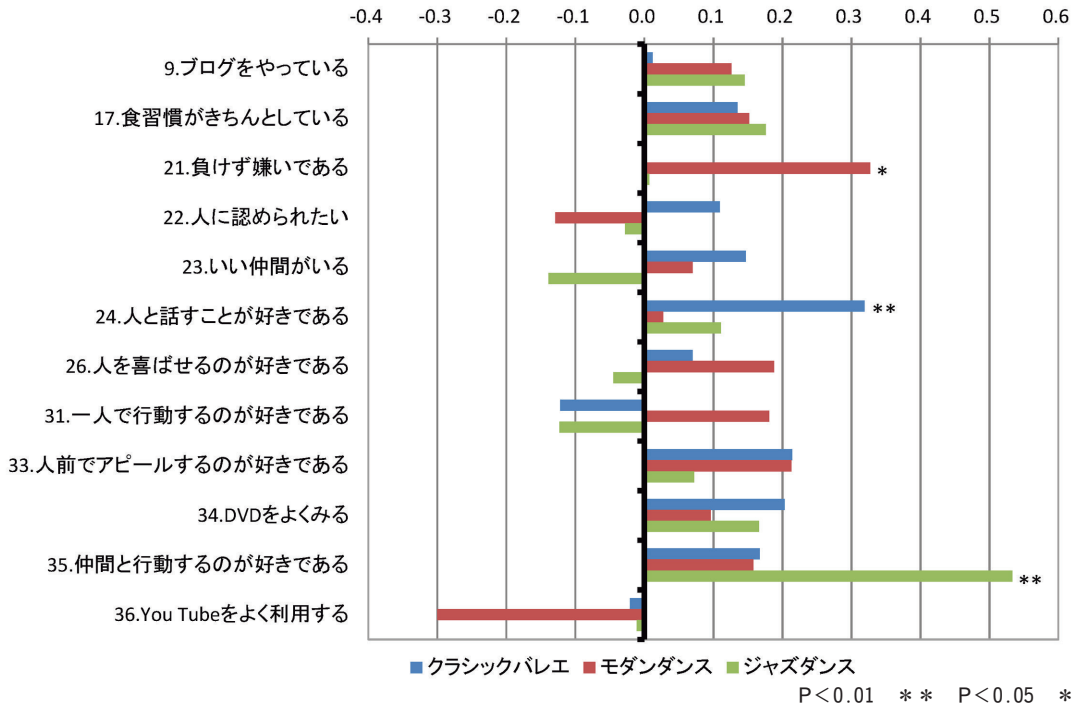


図3 専門ダンスジャンル別「ダンス活動に満足」との規定関係

次いで、ジャズダンス、モダンダンスが中心となっている。これまでのダンス経験においては、現在専門としているダンスジャンルの経験に加え、クラシックバレエ、ジャズダンスはほとんどの舞踊学生が経験したことがあると回答していた。一方、「クラシックバレエ」の学生は中学、高校時代からレッスンや稽古での活動を継続して行っていることや「モダンバレエ」の学生はあらゆるジャンルを経験しているなど、ダンスジャンルによる結果が特徴的であった。「クラシックバレエ」の学生は、幼少期の頃から習い事として始めていることや、複雑で高度な技能を身につけることが必要であることも継続的なレッスンにつながる要因ではないかと考える。また、過去の運動・スポーツ行動においてもレッスン・稽古への参加は共通して高い割合を占めているが運動部への所属はダンスジャンルにより異なる結果が示された。

これらの結果から、ダンス活動においてもそれぞれのジャンルによって運動・スポーツ行動が異なることが明らかとなった。

## 2. 趣向やライフスタイルからみたダンス愛好者の特性

ライフスタイルに関する36項目における分析から、舞踊学生のライフスタイルの特徴が明らかになるとともに、専門ダンスジャンルによる傾向が示された。具体的には、旅行や自然への興味・関心が高いことや人とのコミュニケーションを好むことが示された。また、「ヒップホップ」の学生はお祭りやフェスへの参加意欲が高い結果を示したことや「ジャズダンス」の学生はエステに関心があるなど、ダンスジャンルにより異なる傾向が明らかとなった。これらの結果から新たなスポーツサービスへの提案を考察すると、例えば、ダンスと旅行を組み合わせたダンスツアーや自然の中でのダンスキャンプの開催などが挙げられる。即ち、ダンスや舞踊活動などの運動・スポーツ活動への直接的なサービスアプローチだけではなく、趣向やライフスタイルの特徴に効果的に機能するサービス開発の可能性が示唆された。

## 3. スポーツ行動研究としての新たな展望

本研究では、伝統的な運動者行動論を基本とし、舞踊学生という固有な運動者の運動・スポーツ行動を明

らかにするとともに、スポーツ行動研究の可能性を検討した。運動者行動研究では、スポーツ消費者である様々な運動者を対象としたアプローチが課題となるが、本研究では、舞踊学生即ち、ダンス活動を専門とする運動者の特徴的な運動・スポーツ行動が明らかとなった。また、専門とするダンスジャンルごとに運動・スポーツ行動およびライフスタイル項目への反応が異なる結果を示した。これらのことから、多様なスポーツ種目への対象の拡大や個々のスポーツ種目の中でもより詳細なセグメントに対するアプローチの有効性が示唆された。

さらに、従来の運動者行動論の視点に加え、ダンス文化、舞踊文化や若者文化、ライフスタイルなどを指標とした運動・スポーツ行動研究の実用化は、体育・スポーツ経営の目的であるより豊かなスポーツ生活を促進するための現代的なスポーツプロモーションを可能にするとともに、多様な運動者に対応したスポーツサービスの開発に効果的に機能することが期待される。

## V. 結 論

本研究は、宇土による運動者行動研究を基本概念として、ダンスや舞踊を専門とする運動者を対象にダンス行動、スポーツ行動、ライフスタイルなどの視点から運動者行動の実態および運動者行動研究の新たな可能性を検討した。結果は、以下のように要約される。

1. ダンス・舞踊愛好者の特徴的なダンス・スポーツ行動が明らかにされた。  
ダンス・舞踊愛好者の運動・スポーツ行動は、生涯スポーツ時代における広い意味での運動者として特徴的なスポーツ行動、運動者行動であると言える。
2. ダンスジャンル別による趣向やライフスタイルが特徴的であり、運動・スポーツ行動だけでなく、さらに踏み込んだ視点での運動者行動研究の必要性が示唆された。  
ダンス愛好者という対象の中でも様々なダンスジャンルにより異なるライフスタイル特性があることから、固有なスポーツ種目へのアプローチやより細分化したセグメントに対する運動者行動研究が求められると考える。
3. 新たなスポーツ行動研究の可能性が示唆された。  
従来の運動者行動研究の概念に加え、スポーツ種

目固有の特性やさらに具体的な趣向やライフスタイルなどを指標とした分析から、より個別な運動者行動研究への発展が可能になると共に、多様な運動者に対応したスポーツサービス開発が期待される。

このような研究の視点・アプローチは、運動者行動研究の新たな可能性やよりきめ細やかなスポーツサービス開発への発展を可能にするものと考えられる。

## 参考文献

- 1) 安藤喜久雄編(1998)若者のライフスタイル, 学光社, 東京.
- 2) Chelladurai, P. and Carron, A.V. (1993) Athletic maturity and preferred leadership. *Journal of sports Psychology*. 5: 371-380.
- 3) Chelladurai, P. (1993) Leadership in sports. *International Journal of Sports Psychology*. 21: 328-354.
- 4) 畑攻, 宇土正彦, 八代勉 (1984) 運動・スポーツ行動に対する運動者の主体的条件の類型化に関する研究, 筑波大学体育科学系紀要第7巻, p.11-19.
- 5) 石川織江, 畑攻, 田川絵梨(2011) ストリートダンサーの特性と行動に関する分析と考察, 日本体育学会第62回大会予稿集, p.171.
- 6) 石川織江, 畑攻, 田川絵梨, 小山さなえ, 小野里真弓(2012) ストリートダンサーのマーケティング, 日本体育学会第63回大会予稿集, p.180.
- 7) 石川織江(2013) ストリートダンスの基礎的マーケティング. 平成24年度日本女子体育大学大学院修士論文.
- 8) 伊東夕夏(2006) ダンス系レッスンにおけるサービスプログラムに関する研究. 平成18年度日本女子体育大学大学院修士論文.
- 9) 近藤隆雄(1999) サービス・マネジメント～サービス商品の開発と顧客価値の創造, 生産性出版, 東京.
- 10) 永田靖章(2001) 運動者と運動生活: 体育経営管理学講義(宇土正彦, 八代勉, 中村平 編), 51-59, 大修館書店, 東京.
- 11) 内閣府 政策統括官, 平成19年度版 国民生活白書 つながりが築く豊かな国民生活.  
[http://www5.cao.go.jp/seokatsu/whitepaper/h19/01\\_honpen/index.html](http://www5.cao.go.jp/seokatsu/whitepaper/h19/01_honpen/index.html), (参照日2012年4月20日).
- 12) 内閣府 内閣府経済社会システム, 平成22年度国民生活選好度調査結果, [http://www5.cao.go.jp/seikatsu/senkoudo/h22/22senkou\\_03.pdf](http://www5.cao.go.jp/seikatsu/senkoudo/h22/22senkou_03.pdf), (参照日2013年11月11日).
- 13) 中村平(2001) 運動者と運動行動: 体育経営管理学講義(宇土正彦, 八代勉, 中村平 編), 41-50, 大修館書店, 東京.
- 14) 中村平(2005) スポーツ生活と運動生活: 体育・スポーツ経営学講義(八代勉, 中村平 編), 40-55, 大修館書店, 東京.

- 15) 小野里真弓, 畑攻, 松山善弘, 前田佳奈(2009)ダンスレッスンにおけるベネフィット・セグメンテーションの検討, 日本体育学会第60回大会予稿集, p.176.
- 16) 小野里真弓, 畑攻, 松山善弘(2010)レッスンビジネスにおけるベネフィット・セグメンテーションーダンスカンパニーを対象とした分析と考察ー, 日本女子体育大学紀要第40巻, p.11-21.
- 17) 小野里真弓, 畑攻, 石川織江(2013)ダンス愛好者のマーケット・セグメンテーションー舞踊学専攻学生のダンス・スポーツ行動分析からー, 日本体育学会第64回大会予稿集, p.231.
- 18) 小野里真弓, 畑攻, 木戸直美, 小山さなえ(2013)生活満足からみたスポーツサービスの検討, 日本女子体育大学紀要第43巻, p.11-20.
- 19) 酒井隆(2003)図解アンケート調査と統計解析がわかる本, 日本能率協会マネジメントセンター, 東京.
- 20) 清水紀宏(2005)体育・スポーツ経営とは: 体育・スポーツ経営学講義(八代勉, 中村平 編), 16-39, 大修館書店, 東京.
- 21) 総理府広報室編(1987)日本人のライフスタイル, 大蔵省印刷局.
- 22) 高梨智弘(1995)ビジュアルマネジメントの基本, 日本経済新聞, 東京.
- 23) 宇土正彦(1976)体育管理学入門, 大修館書店, 東京.
- 24) 横浜市企画局(1997)from Y 横浜発: 新スポーツ考 2008年ライフスタイルへの提案, 元就出版社, 東京.
- 25) 八代勉(2005)現代スポーツと体育・スポーツ経営学: 体育・スポーツ経営学講義(八代勉, 中村平 編), 2-15, 大修館書店, 東京.
- 26) 八代勉, 宇土正彦, 畑攻, 柳沢和雄(1981)運動者行動に関する研究ー特に, スポーツに対する購買意識の分析を中心にしてー, 筑波大学体育科学系紀要第4巻, p.29-39.

(平成25年9月11日受付)  
(平成25年12月18日受理)